

I 研究の概要



令和4年度 校内研修計画

南城市立船越小学校

1. 研究テーマ

すべての子がいきいきと活動し、伝え・認め合う体育学習

～仲間とともに活動し、楽しさや喜びを共感できる授業を通して～

2. テーマ設定の理由

近年、情報化やグローバル化の加速的進展や人工知能（AI）の飛躍的進化にともなう急激な社会変化が進んでいることは周知の通りである。そのような予測困難な時代にあっても、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくために必要な資質・能力を子供たちに身に付けさせることが学校教育に求められている。学習指導要領においても、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が示された。

そこで、本校では、2020年度より「国語科における伝え合うよさを味わわせる授業づくりを通して」をサブテーマに掲げ、国語の授業改善に取り組んできた。国語科におけるアンケートの結果から、自分の考えを持つことができるかの質問には、9割以上の児童ができる・まあまあできると答えており一定の成果が出ている。また、友達の考えを聞くことがすきだと答えている児童も9割を超えている。一方、自分の考えを発表することができるかの質問に対しては、できる・まあまあできると答えている児童の割合が63%で前年度の55%からは上がっているが、自分の考えに自信をもって伝える段階にまでは達していない。2020年度からスタートした国語科の研究を通して自分の考えを持って伝え合う力はついてきており、一定の成果を出すことができた。2022年度からは体育科を通して、伝え合うことで認め合う素地作りを行い、このことにより培われる他者との活動を楽しみ、共感できる力を高めていきたい。

伝え認め合う力を高めるためには、①教師が教材研究と児童理解を深めること、②伝え合い互いに認め合う場の工夫を図ることなどの授業改善に取り組むことが挙げられる。

これらのことをふまえ、今年度の取り組みは、研究テーマを「すべての子がいきいきと活動し、伝え・認め合う体育学習」サブテーマとして「仲間とともに活動し、楽しさや喜びを共感できる授業を通して」とした。

3. 研究仮説

体育科の教材研究により、伝え認め合う活動の工夫を図ることなどの授業改善に取り組むこと、加えて、学校全体を通して協働的な学び、支持的風土づくりに取り組むことで、児童は話す楽しさや自分や友達の考えのよさに気づき、自分の考えに自信をもって発表し、自己有用感を高め、いきいきと楽しく活動に取り組むことができるようになるであろう。

研究に対する基本的な考え方

研究主題について

(1) 「すべての子がいきいきと活動するとは」

特別な支援を要する児童も共に行う体育の学習において、一人一人の安心感を大切にしながらの学習の組み立てが必要とされる。「できる」「勝ち」にこだわらずに、参加する楽しさを味わうことのできる授業づくりの中で安心して活動できることを大切にしたい。

(2) 「伝え・認め合う力を高めるとは」

伝え合うためには新たな情報と既存の知識を活用しながら課題を解決したり、自己の考えを形成したり、新たな価値を創造したりするために必要な情報を選択し、思考していくことが必要になる。また、伝える相手や状況に応じた表現力を培うことが求められる。

自己の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程である主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することを通して、体育科の「思考力、判断力、表現力等」を養うことを重視している。(新学習指導要領解説体育編 p 22)

体育科 思考力、判断力、表現力の目標(学習指導要領)

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
<p>各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>ア 自己や友達が考えた楽しみ方から、自己にあった楽しみ方を選択する。</p> <p>イ 自己の工夫したことを、ともに学ぶ仲間、教師、保護者など他者に伝える。</p>	<p>自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付けその解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>ア 中学年の各種運動において見付けた自己の運動や身近な生活における健康の課題の解決に向けた方法や活動を工夫する。</p> <p>イ 自己の考えを他者に伝えることで、自己の考えを深めることができるようにする。</p>	<p>自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>ア 取り組む運動についての課題と、課題に対応した練習の場、技や技術を確認する。その際個人とグループの課題を整理することが大切である。</p> <p>イ 課題の解決に向けた方法や活動を工夫する。</p> <p>ウ 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。自己の考えのみならず仲間の考えたことを他者に伝えることで、他者の考えを理解するとともに自己の考えを深める。</p>

4. 年次計画

令和4年度（一年次）研究テーマの設定と指導体制の整備（理論研究）

令和5年度（二年次）研究テーマの追求（授業実践）

令和6年度（最終年次）研究発表会（公開授業）

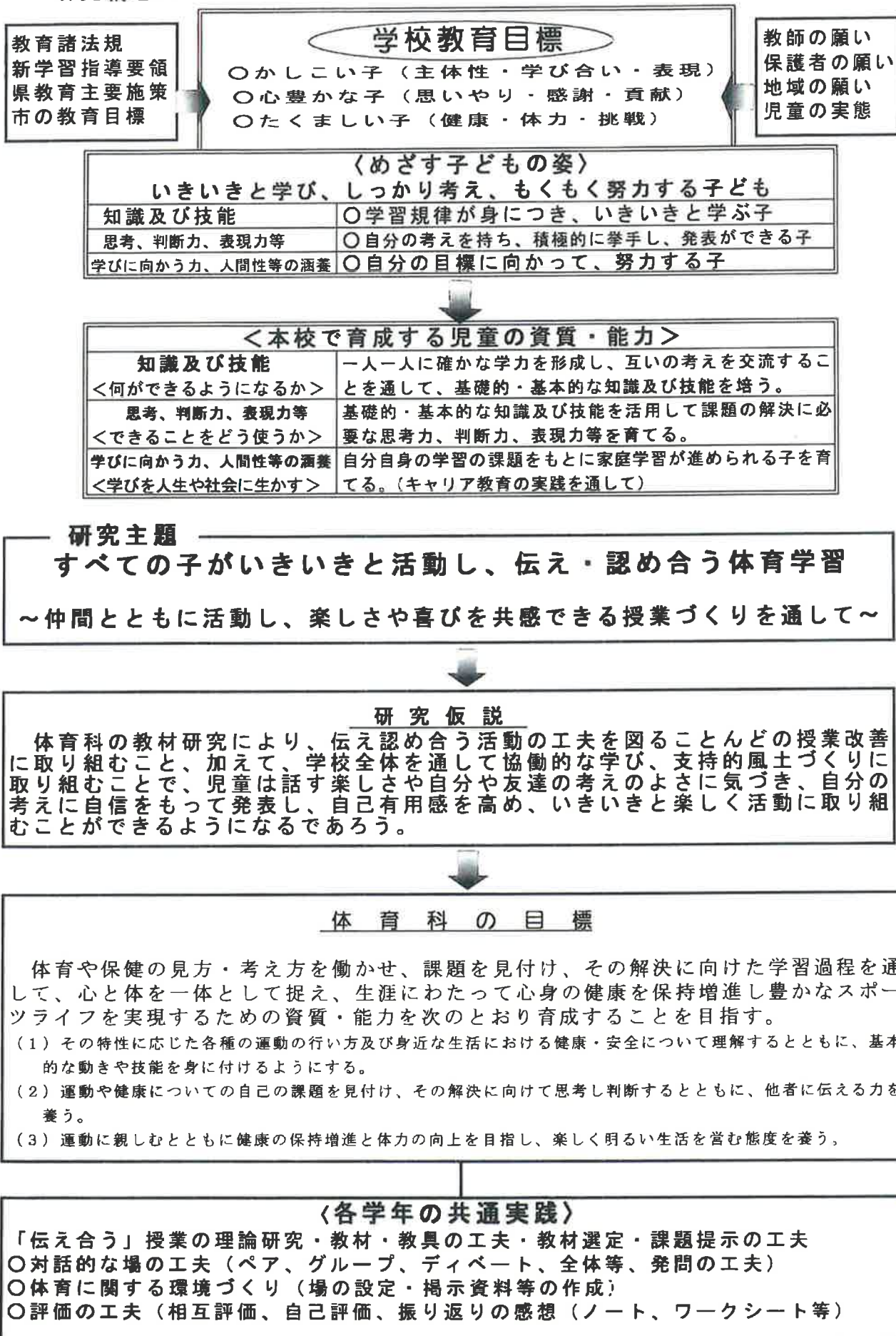
5. 研究の方針

- (1) 研究テーマや研究内容・研究計画については、全職員の共通理解のもとに推進する
- (2) 研修は、校内研修日や年間の計画に沿って行う。(原則として月1回)
- (3) 学年部会（低・中・高学年）を設け、学年担任以外の教諭は、学習環境部会に属するものとする。
- (4) 授業研究会について
研究仮説を意識した研究授業を実施する。
 - ① 全体授業研究会（主事招聘授業）を年間1回～2回実施する。
（令和3年度主事招聘授業経験者、初任研、2年研、3年研は除く）
 - ② 全体授業研以外の学級は、年間1回以上の公開授業を行い、学年メンバーで授業反省会を持つ。尚、他学年の参観も可とし指導案（本時のみ）は全員分用意する。
- (5) 研究テーマに関する教科以外の研修も実施し、教師の指導技術の向上に努める。
- (6) 行政研修、その他校外での研修の機会を多く持ち、全職員の共有化を図る。
- (7) 学びプロジェクト部会（研究推進委員会を兼ねる）を置き、必要な内容を話し合う。
（メンバー…学推主任・研究主任・授業改善リーダー、隣学年1名）
※各学年主任・学習環境部代表は必要に応じて参加する。

6. 研究内容

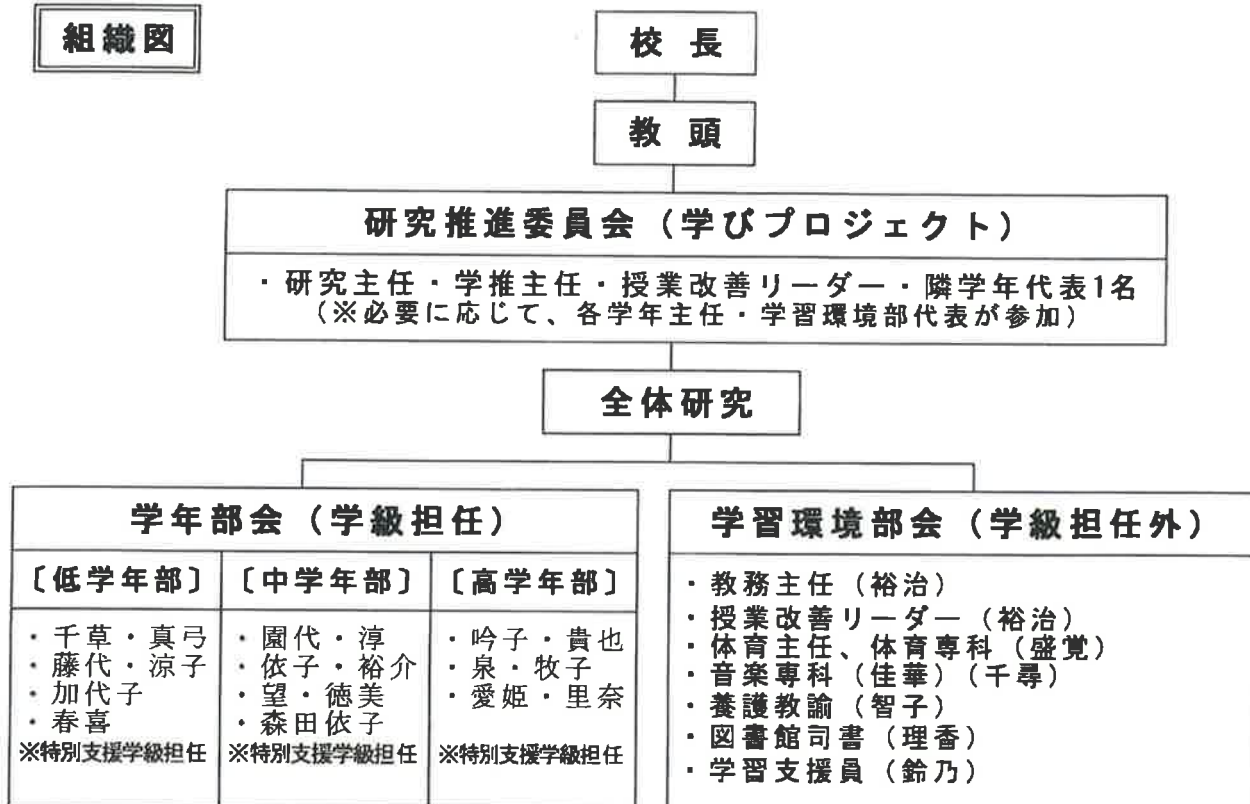
- (1) 研究テーマや研究内容についての理論研究
- (2) 児童が教材に主体的に関われるような教材・教具の工夫・教材選定・課題提示の工夫
- (3) 年間指導計画の実施及び改善（重点化・弾力化・系統化）
- (4) 発達段階に応じた話形の活用（低学年・中学年・高学年）
- (5) 教材分析と発問の工夫（子どもの中に「問い」が生まれる発問の工夫）
- (6) 伝え合う力を育てる交流活動の場の工夫
（交流の形→ペア・グループ・全体等）
（教材、教具の工夫→付箋紙、ホワイトボード、タブレット、電子黒板等）
- (7) 各教科等において言語活動を充実させた授業作り。（カリキュラムマネジメントとの関連）
- (8) 評価の工夫（発言・ノート・ワークシート・ポートフォリオ・自己評価等）。表現の場の工夫《スピーチ活動（昼の会、校内放送等）、音読朝会、学習発表会、始業式・終業式等の代表挨拶等。》
- (9) 家庭や地域社会との連携を図った学習指導
（家庭からのコメント、校外学習でのインタビューや外部講師との対話活動）

7 研究構想図



8 研究組織と活動内容

組織図



活動内容

組織名	活動内容
研究推進委員会 (学びプロジェクト)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の検討、研究の推進 ・全体会への提案事項の検討 ・理論研究、研究内容の検討 ・全体授業研究会の計画検討 ・本年度の研究の反省及び次年度の研究計画の検討
研究主任	<ul style="list-style-type: none"> ・研究全般についての企画・運営 ・学年部会、学習環境部会との連絡調整 ・外部人材との連絡調整 ・研修推進委員会・全体研修会研究会への提案 ・資料の収集と提供
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の計画や研究内容、推進上の諸問題についての研究協議と共通理解 ・理論研究、実技研修 ・全体授業研究会の実施 ・各種研修会からの伝達講習 ・実践活動の評価
隣学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・全体授業研における協力や情報交換 ・教材研究、指導案・資料作成 ・隣学年授業研究会 (運営・記録・反省)
学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の授業研究の実践及び研究・まとめ ・児童の実態把握 ・教材研究、指導案作成、資料作成 ・年間計画の作成、見直し ・教材、教具の開発、準備、保管
学習環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、職員意識調査の実施・集計・分析 ・校内研修に関する掲示教育、環境の整備 ・研究授業や日々の活動記録の保管 (ノート記録・写真・ビデオ等) ・授業研究会会場の準備

9. 研修計画

月日	曜日	研修内容	備考
4/4	月	全体研①・エビペン	全職員
4/22	金	全体研②・今年度の校内研修についての共通理解理論研	全職員
5/13	金	性教育講演会	全職員
5/20	金	A E D 研修	全職員
6/24	金	全体研③（理論研修）	全職員
7/26	水	夏期校内研修（全体研④）	全職員
7/27	木	夏期校内研修（全体研⑤）	全職員
7/28	金	夏期校内研修（全体研⑥）	全職員
9/30	金	全体研⑦ 全体研（代表研究授業） 3年2組 授業者「津波古 淳」	全職員
10/28	金	全体研⑧（理論研修）	全職員
11/25	金	全体研⑨ 全体研（代表研究授業） 1年2組 授業者「太田 真弓」	全職員
12/23	金	全体研⑩ ・研究集録作成について ・本年度の校内研修の反省について	全職員
1/27	金	全体⑪ ・本年度の成果と課題 ・次年度の研究テーマについての検討	全職員
2/24	金	全体研⑫ ・次年度校内研修計画・研究集録作成	全職員
2月～ 3月		次年度の主事要請計画（教育センター）	校内研修担当
3月～		年間計画への加筆修正（成果と課題をもとに）	校内研修担当